

<中高生部門>

タイトル	良かったところ	改善した方が良く感じたところ
後ろの正面だあれ？	<ul style="list-style-type: none"> ○ストーリーの設定が非常にユニークであり、作者の独創性が十分に反映された作品であった。 ○京都人の特徴を題材に取り上げた作者にセンスや独自性を感じた。 ○ショートストーリーにしては登場人物が多いのに、読んでいる途中で分からなくなる事もなくしっかり書き分けられていた。 ○特に括弧の使い方に工夫が見られ、心情と発言の違いなども上手く表現できていたように思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○最後の種明かしの所が少しあっけなく、もったいない感じがした。 ○惹かれるタイトルの割に、実際に「かごめかごめ」に触れられるのは最後の一瞬だけで、その触れ方も雑なので、期待を裏切られた。 ○何に対しても否定的で悪態をつく主人公に共感ができない。どうしてそういう態度をとるのか、登場人物の背景を丁寧に書き出すべきだと思う。
五条通りを歩く鬼	<ul style="list-style-type: none"> ○過去の語りから始まり、最終的に現代社会の抱える問題に帰結するところにメッセージ性がある。 ○「鉄之助とは何だ」と、一貫してその存在感が頭にありながらページをめくらされる。その好奇心を煽る感じは追従を見なかった。 ○周囲との関わりを通して、「私」の心情変化が読者に伝わるように描写されている。 ○文章が端正で読み易く、読者の好奇心をくすぐりながらどんどん読み進めさせてしまう力があると感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○物語の時代設定が分かりにくく、最後に車や会社が出てきて現代と分かる際の違和感が大きい。 ○結局何が言いたいのか、どうしたかったのかがよく分からなかった。世の不条理をつくづく感じさせられる話だが、それをつらつらと書き連ねただけでは小説にならないと思う。 ○語りという手法は良いアイデアだと思うが、手法とストーリー展開は別物。ストーリー展開は、やはり起承転結を意識するのが基本で、メリハリをつけてストーリーを組み立ててこそ、読者に理解してもらいやすい、納得してもらいやすい作品になると思う。
「この想いが届くと	<ul style="list-style-type: none"> ○物語中に多くの京都の特産品や伝統工芸品が出てきて、よく調べている。随所に京都らしさが出ている。 ○構成がしっかりしており、物語全体がよくまとまっている。 ○主人公の心理描写が丁寧に書いてあり、寄り添いながら読める。 ○若い主人公の会話文を中心に、爽やかな気持ちのまま、最後まで楽しめる作品だった。中高生が憧れ、ドキドキしている様子が生き生きと伝わってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○タイトルと内容の関連がよく分からない。 ○ストーリー展開に緻密に構成されていない部分が散見されるのが気になる。強引に辻褄を合わせてくっつけたような感がある。 ○和歌や神社場面での説明が多い。調べたことを意味なく書き連ねているように見られる。
失恋	<ul style="list-style-type: none"> ○二人が電車での出会い、死ぬ理由と生きる理由という全く違うものを探すという主軸がしっかり通っていて良い。 ○文章の装飾が過度でなく読みやすかった。 ○夜間列車内の場面が丁寧に書けている。細やかな女性の所作や、列車の振動が伝わってくるように感じる。 ○所々に京都の特徴が散りばめられており、その場所から連想される事象や気持ちを組み込み、作品に深みを出そうとしていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○タイトルに面白味がない。 ○設定が壮大な割に物語が平易で、パンチに欠ける。結末が急であっさりとしすぎており、もう少し丁寧に書き込んでほしいと思った。 ○確かに男女は京都にやって来たが、ただそれだけのことであって、この場所をどこか別の地名に置き換えても何の問題もない。二人が来るのが京都でなければならぬしっかりした理由付けが必要。
先日助けていただいた八つ橋です	<ul style="list-style-type: none"> ○登場人物それぞれの個性が生きていた点良かった。 ○この作品に登場している化け物は不思議と人間社会と調和しており、作者は想像力豊かでオリジナリティにあふれている。 ○何それ？ どういうこと？ どうなってるの？ と突っ込みたくなるような状況が次々と発生するが、なぜかその突飛な情景が思い浮かぶのは、必要な説明がきちんとなされているからだろう。文章が上手く、言葉選びも適切で、とても読み易い。 ○SNS真っ盛りの今の世の現状をリアルに盛り込みつつ、古風な化け物語を巧みに絡み合わせたところが良い。中高生の感性の瑞々しさを感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○人物の書き分けがやや分かりにくかった。個性がそれぞれにあるのは分かるので、書き分けで差を生かしていければより物語に入りやすく、読みやすい作品になると思う。 ○小説というより漫才のように感じた。 ○生八つ橋の形状や食感が瞬時に思い浮かばないと、この作品の真の面白さが半減してしまう。誰もが八つ橋を知っているはずという思い込みを捨てて、どんな読者にも作品を100%楽しんでもらえるように、大事なことを抜かりなく作品で描写すべき。
似たもの同士	<ul style="list-style-type: none"> ○人との関わりを通して二人の主人公が前向きに歩み始めるストーリーが良い。読者が明るい気持ちになれる。 ○所々にユニークな言い回しが散りばめられており、その時の情景・心情が読者に明確に伝わったように思う。 ○登場人物二人の視点から進んでいく物語が印象的。 ○中高生という多感な時期の心情変化、発言と気持ちの矛盾、そういった点を上手く表現できており、中高生部門としての作品価値が高いと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○音楽を軸とするのなら、タイトルしかり、物語の中に音楽的要素をもう少し入れても良かったのではないかと。ふんわりと音楽に触れているだけなので薄っぺらい印象になってしまう。 ○男性の彼女が自殺したエピソードが無理矢理入れられたように感じる。書くならもっと丁寧に、主人公の苦しみと関連付けながら書いた方が良く思う。 ○京都を舞台にした作品なのだから、もっと心象と風景をリンクさせて描写すると、より作品に深みが出るのではないかと。

<海外部門>

タイトル	良かったところ	改善した方が良く感じたところ
残夢	<p>○海外部門ならではの背景設定（母国特有の政治システムなどの背景）の面白さがあったため、作者ならではの独創性があり、海外部門の作品として価値があると思った。</p> <p>○スケールも大きく、非常にスリリングな展開で、ミステリーとして良くできている作品だと思った。ハラハラしながら読み進めた。</p> <p>○京都で投資目的の高額不動産購入を行う、中国人観光客が殺到するという現代的な問題も含んでいて良かったと思う。中国国内の格差問題、環境汚染と健康被害など、色々と考えさせられる作品だった。</p> <p>○多重構造のストーリー展開を、混乱なく書きまとめた手腕が素晴らしいと思う。</p>	<p>○舞台が京都というだけでなく、京都との関連性にも少し言及できると、作品としての価値がより高まったように思う。</p> <p>○日本語として不自然な表現がいくつかあり、読み進める妨げになると感じた。使用する形容詞を厳選するだけで、とても読みやすい作品になると思う。</p> <p>○ある程度の予備知識が無いと分かりにくい部分がある。社会的な問題などがテーマに含まれているので、もう少し丁寧な説明があると物語が分かりやすくなる。</p>
鈴虫の飛行船	<p>○ストーリーに作者の独自性が現れており、短編小説でありながら作品としてまとまっている印象を持った。</p> <p>○壊れてしまった家族との絆に苦しみ、嘆き、救いを求めてもがき続ける主人公の姿が生き生きと描かれていると思う。</p> <p>○所々の表現が面白く、読者を作品に引き込む文体で構成されていたように思う。</p> <p>○比喩表現が豊か。自然物や歴史的な出来事などを、比喩表現として盛り込み、物語全体の魅力となっている。</p>	<p>○ストーリーの展開が若干早かったように思われた。そのため、読者が少し置いていかれる場面があったように思う。</p> <p>○家族関係や政治的背景に苦しむ人々を描いた作品だと思うが、主人公はどう成長したのか、どこに向かおうとしているのか、そのあたりがよく分からない。</p> <p>○若干冗長な文章。修飾語や比喩表現の多さは作品の魅力ではあるものの、多用しすぎると冗長な印象になる。場所を絞って使う方が効果的であると思う。</p>